

No.	実施大学	授業科目名	担当教員	単位数	開講区分	曜日	予定回数	時間	実施場所	定員
113	拓殖大学	日米関係	佐藤 丙午 国際学部 教授	2	前期	月	13	11:15～13:00	拓殖大学 八王子国際キャンパス	5

【授業の目的及び到達目標】

本講義の目的は、日米関係の歴史を学習し、日本にとって特殊な二国間関係の誕生から発展、そして現状を解明することである。

19世紀から始まる日米関係の歴史は、友好と対立の歴史でもあった。この関係を総合的に学習し、現在両国間で発展しつつある問題に関する理解を深めることで、特定の二国間関係が国際関係の影響を受けながら変化する様子を知る。

本授業は、二国関係の歴史的文脈を理解し、これを用いて日米関係の将来に対する提言ができる能力を身につけることを到達目標とする。

【授業内容】

1. イントロダクション（日米関係の現状）

授業計画の説明を行うと共に、日米関係の現在地を解説し、なぜ日米関係を学ぶ必要があるかを説明する。

2. 日米関係の歴史（初期の日米関係）

ペリー来航から日露戦争に至るまでの間の、日米関係の確立期について解説する。

3. 日米関係の歴史（世紀末から20世紀初頭の日米関係）

日露戦争から第一次世界大戦に至る、両国間の緊張関係が高まっていく過程を解説する。

4. 日米関係の歴史（太平洋戦争への道）

戦間期の日米関係を俯瞰する。

5. 日米関係の歴史（第二次世界大戦）

日米関係が戦争に向かう過程で、何が問題であったのかを解説する。

6. 日米関係の歴史（戦後日米関係と冷戦）

第二次世界大戦後の日米関係の歴史を振り返る。

7. 安全保障問題①日米安保条約

日米安全保障条約を、条文ごとに解説し、その政策的意味を提示する。

8. 安全保障問題②ガイドライン

日米安全保障協力の指針（ガイドライン）の内容を解説する。

9. 安全保障問題③2015年ガイドラインとその後

日米安全保障関係において、今日問題となっている諸問題を解説する。

10. 日米経済関係（経済摩擦の歴史）

日米経済関係の歴史を振り返る。特に1980年代以降の日米経済摩擦について、その経緯と、今日の日米関係に及ぼした影響を解説する。

11. 日米経済関係（構造協議後の日米関係）

1990年以降の日米経済関係を解説する。日米経済摩擦の時代から、WTOの下での日米経済関係、そしてバイデンの国際経済政策と日本の対応について解説する。

12. バイデン政権の日米関係

バイデン政権下の日米関係について、最新の米国の日本専門家の論考などを参考にしながら解説する。

13. 文化交流の歴史と学生の可能性

日米間の人的交流の歴史を振り返り、留学等の方法を解説する。

※拓殖大学の授業時間は、1時限105分となっています。

【授業の方法】

教科書に基づいて、講義を中心に構成する。基本的にインターアクティブな授業は想定せず、伝統的な手法で実施する。

【予習・復習】

歴史部分については、教科書による予習と復習を求める。授業では、日米関係の分析視角を紹介するため、事実関係については教科書等で確認すること。

【成績評価方法】

授業参加（小課題を含む）30%、試験50%、平素点20%で評価する。出席は重視しないが、授業内容を理解しない限り、試験内容を把握できないものとする。試験内容のフィードバックは、全体及び個別に実施する。

【参考書、教材等】

教科書

Walter LaFeber, <i>The Clash: US-Japan Relations Throughout History</i>(WW Norton, 1997).

Michael Green, <i>By More Than Providence: Grand Strategy and American Power in the Asia Pacific Since 1783</i>(Columbia Univ. Press, 2019)

竹内俊隆、『日米同盟論—歴史・機能・周辺諸国の視点』（ミネルヴァ書房、2011年）。

滝田賢治、『アメリカがつくる国際秩序』（ミネルヴァ書房、2013年）。

その他資料等。

※ この授業は、4/17（月）が初回です。